

大学院が 社会人学習者から選ばれる 教育機関となるために

社会人に大学院を提案する現場で、
1000人を超える社会人大学院生の事例から見てきたこと

リクルート進学総研主任研究員（社会人領域）
スタディサプリ社会人大学院 編集デスク
（元ケイコとマナブムックシリーズ編集長）

乾 喜一郎

2019／09／19

発表者について

乾 喜一郎

1992年東京大学教養学部卒。長年キャリア情報誌の編集・制作に携わり、2002年より社会人学習領域を担当。2006年ケイコとマナブムックシリーズ編集長に就任。2018年「スタディサプリ社会人大学院」新装刊。2019年よりリクルート進学総研主任研究員（社会人領域）。

これまで3000名以上の社会人学習者のライフヒストリーを取り上げ続け、社会人大学院生はそのうち1000人以上を占める。

職業実践力育成プログラム（BP）の創設、実務家教員養成、離職女性の復職や資格・検定の質保証など、各種社会人関連施策の検討に際し、有識者委員として主に学習者の立場から参画。

他、白百合女子大学非常勤講師、GCDF- Japanキャリアカウンセラー



【社会人の学習実施率】 「学び」の実施率 ～ 3つの数字

あなたは、この1年間くらいの間に、どのような場所や形態で学習をしたことがありますか。この中からいくつかもあげてください。

58.4%

内閣府「生涯学習に対する世論調査」

(調査実施18年6～7月、対象は全国18歳以上の日本国籍を有する者、有効回収数1710人)
複数回答で答えるこの質問に対し、何らかの手段を答えた者の合計の数字。職場における教育研修から自宅で趣味の本を読むこと、インターネットで何か調べ物をする事まで含まれる。

あなたは、昨年1年間に、自分の意志で、仕事にかかわる知識や技術の向上のための取り組み(たとえば、本を読む、詳しい人に話を聞く、自分で勉強をする、講義を受講する、など)をしましたか

33.1%

リクルートワークス研究所「全国就業実態調査」

(調査実施18年1～2月、対象は15歳以上の雇用されている者、サンプル数30,223人)
趣味に関係するものは含まれないが、質問のように「詳しい人に話を聞く」ことまでが含まれる

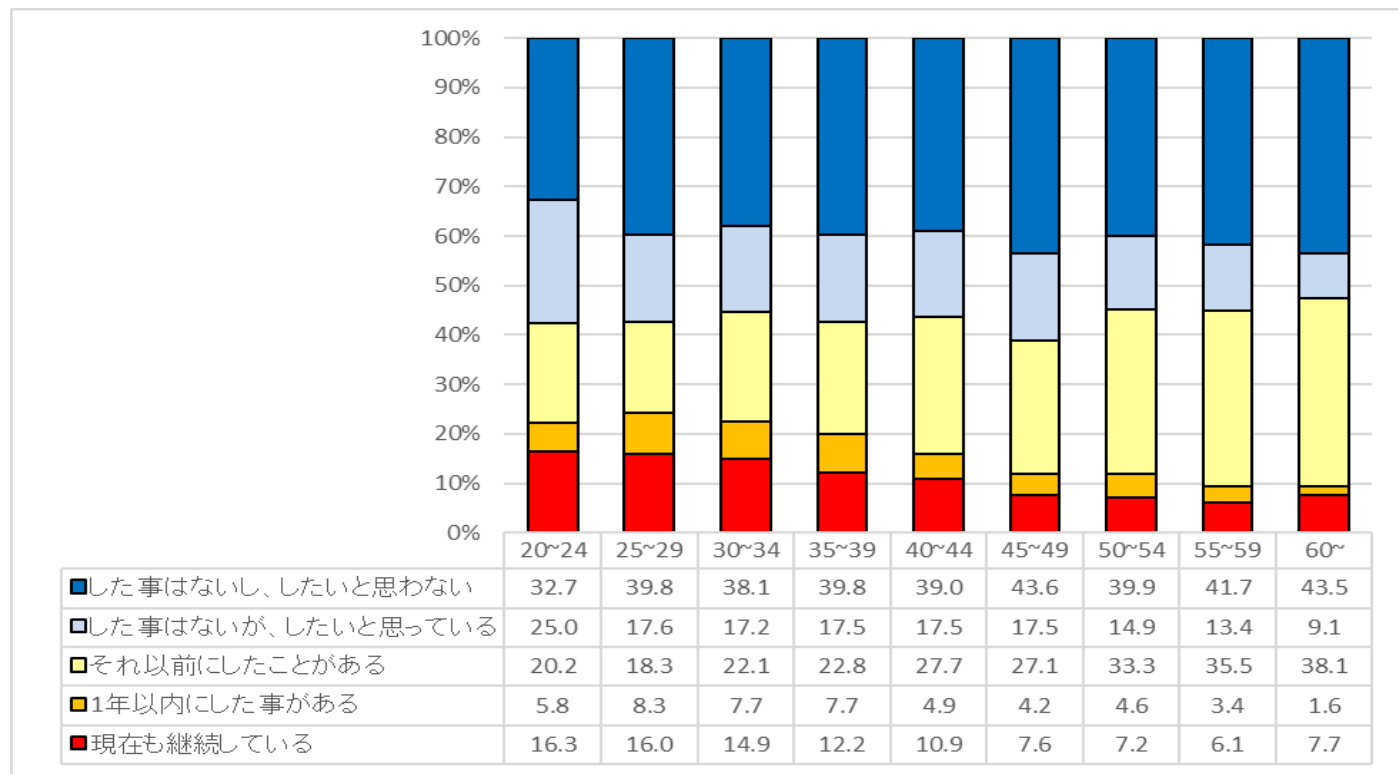
あなたはこの一年間で、職場の指示以外でなんらかの学び事・習い事を実施しましたか？

9.3～24.3%

ケイコとマナブ「学び実態調査」

(調査実施17年12月、対象は全国の20～69歳男女有職者 サンプル数N=60,000(男性30,000女性30,000))
趣味系の習い事が含まれる一方で、職場の指示で実施した研修や業務中の調べものなどは含まれない。
年齢帯ごとの質問のため実施率には幅がある(P4～5参照)。

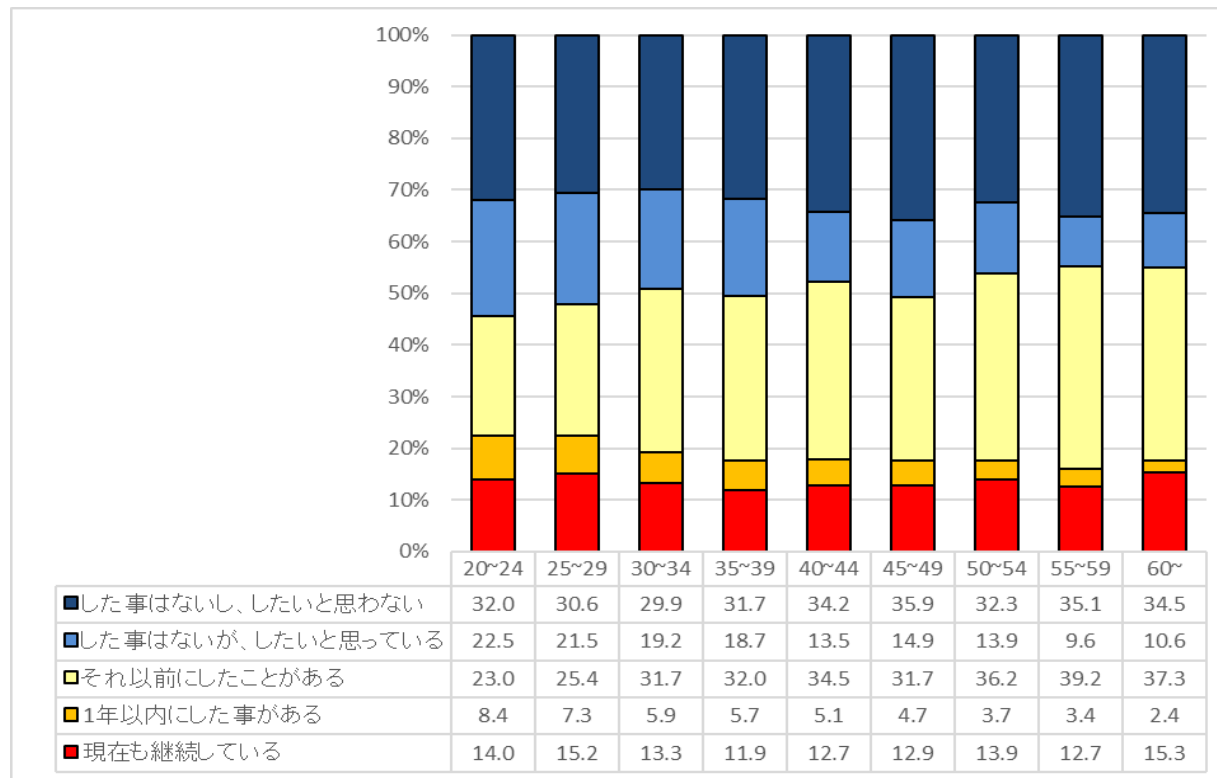
【社会人の学習実施率】 学習実施率／未経験率（男性）



2017	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~
この一年間での学び事・習い事の実施率	22.1	24.3	22.6	19.9	15.9	11.8	11.8	9.5	9.3
学び事・習い事の未経験率	57.7	57.4	55.3	57.3	56.5	61.1	54.9	55.1	52.5

出典：2017年12月実施 学び実態調査
 全国の20～69歳男女有職者を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査
 サンプル数N=60,000（男性30,000女性30,000）

【社会人の学習実施率】 「学習実施率／未経験率（女性）」



2017	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~
この一年間での学び事・習い事の実施率	22.5	22.5	19.2	17.6	17.8	17.5	17.6	16.1	17.6
学び事・習い事の未経験率	54.5	52.1	49.1	50.4	47.7	50.8	46.2	44.7	45.1

出典：2017年12月実施 学び実態調査
 全国の20～69歳男女有職者を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査
 サンプル数N=60,000（男性30,000女性30,000）

【社会人の学習実施率】

「学習を実施する人と実施しない人

**あなたはこの一年間で、職場の指示以外で
なんらかの学び事・習い事を実施しましたか？**

実施率は、男女とも、**年齢があがるにつれて男女とも減少。**

また、

「これまでやったことがない」= **未経験率の数字は、年齢が上がっても減少しない**

学ぶ人は学び続ける一方で、
学習を実施したことがない人は実施しないまま…



学習実施者と非実施者は、二極に分解。

【社会人の学習実施率】 「学習」が示す範囲

(意識せず学習)

何らかの経験を通じてインプットを行う・成長する

(他者からの指示による学習)

職場でのOJTを受ける

職場の指示で教育（社内・社外）を受ける

(自ら主体的に学習)

検索して調べる

身近な人に質問して聞く

本を買って読む

手を挙げて職場の研修（社内・社外）に参加する

自らの意思で無料の学び事・習い事に参加する

自らの意思で**学び事・習い事商材を購入**する

内閣府調査
(実施率58.4%) の定義

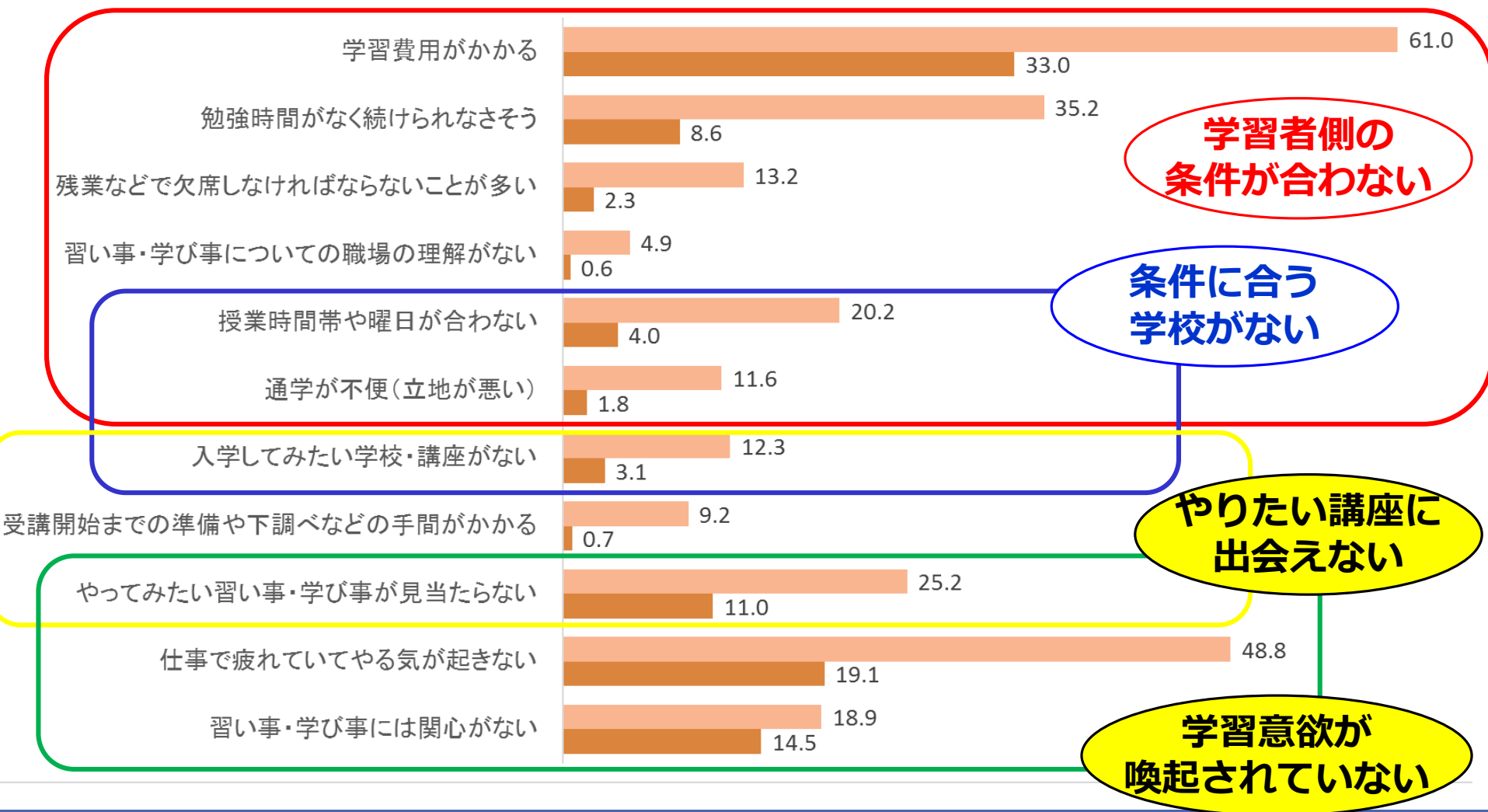
ワークス研究所調査
(実施率33.1%) の定義
※仕事に関わることのみ

ケイコとマナブ調査
(実施率9~24%) の
定義

この一部が
社会人大学院への
進学

【社会人の学習実施率】 「学び事・習い事の「非」実施理由

グラフ上：複数回答、グラフ下：単数回答



【社会人の学習実施率】 「なぜ学び事・習い事を実施しない？」

理由は「ない」（ワークス研究所）

→なぜ、学ばないことがデフォルトなの？

1 学習での成功体験がない

- ＞就学期間内も、就職後も、学習したことでメリットを感じた経験がない
- ＞業務・実践の場への反映経験がない
- ＞自己肯定感を傷つけられる

2 学習自体が意味がある・面白いと思えない

- ＞学校の授業・研修は「ただ聞く時間」「耐える時間」
- ＞自分にとっての学びの価値を振り返り意味づけを行った経験が乏しい
- コンピテンシーの評価軸を持たず、コンテンツでしか評価できない

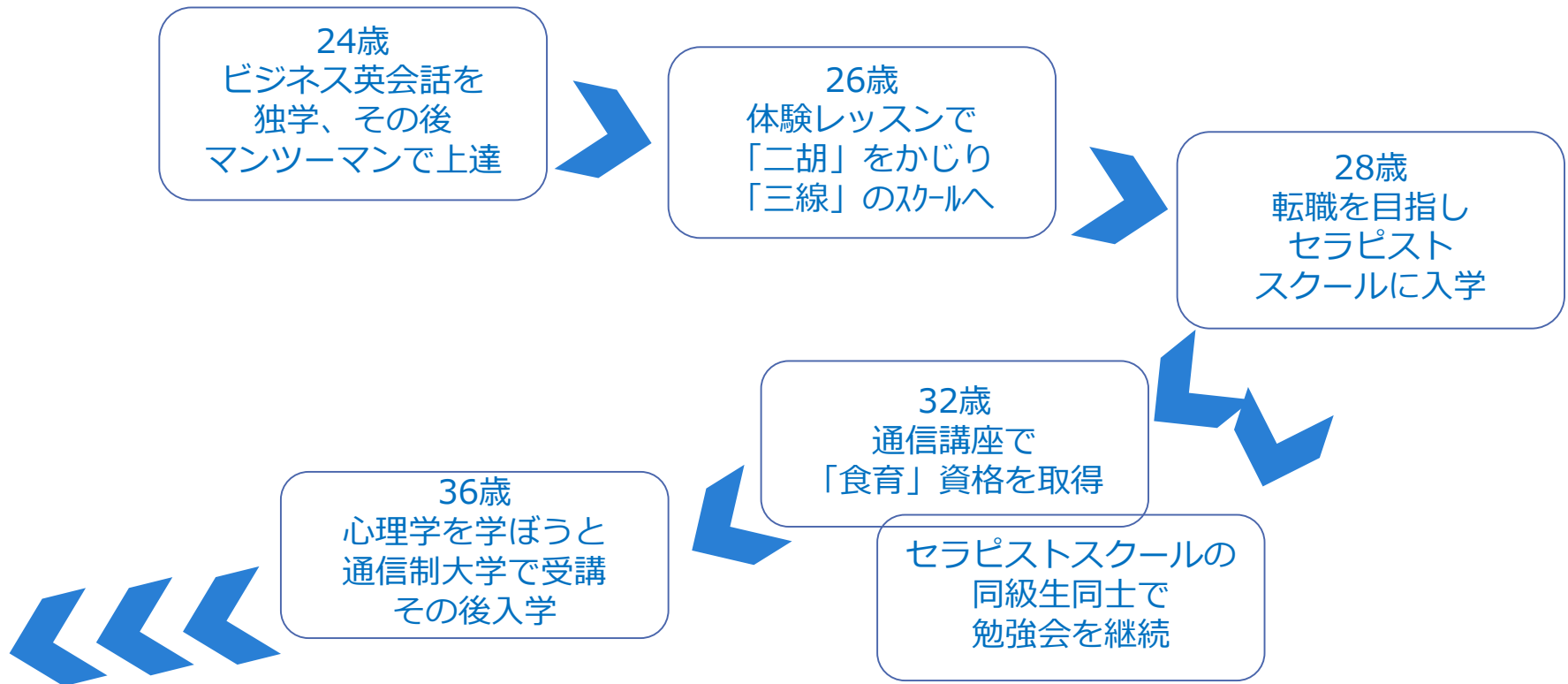
3 周囲に学び実施者が少なく、**ロールモデルと出会う場がない**

大学院で学ぶ社会人を増やす
↓
「誰」をターゲットに設定？

【社会人学習者とは】 大学院で学ぶ社会人は、これまで学び続けてきた人

取材対象者の多くが、社会人になって以来、継続的に学び続けてきた人々

【典型的な例】



【社会人学習者とは】学び続ける人が知らない学び事でも始めることができる理由

学習による成功体験が次なる学習開始を支える

EX.「役に立った」「力がついた」「楽しかった」「友人ができた」…



過去の経験から、
学習後、そしてその後成長を継続させている自分を
イメージし、評価することができる

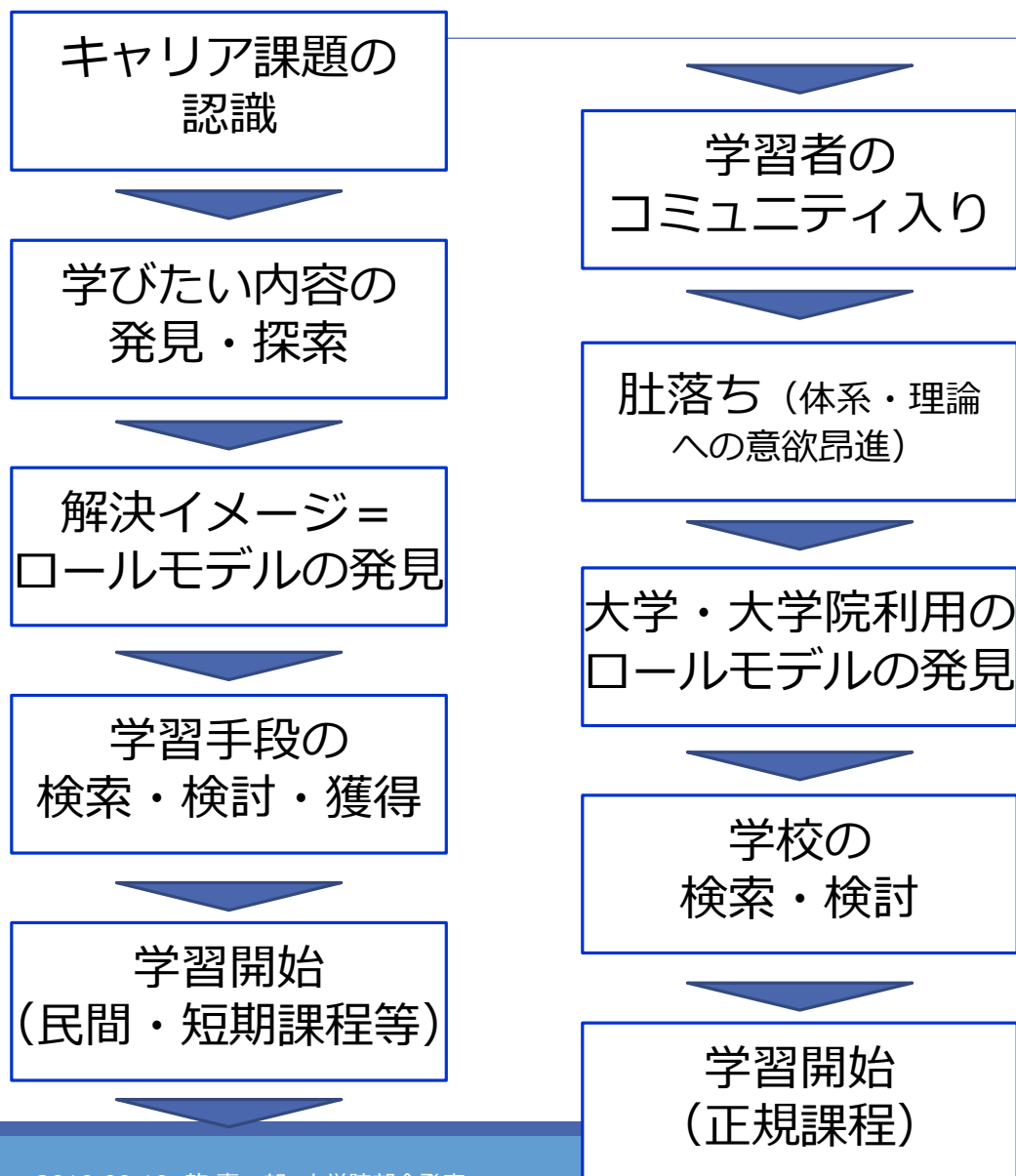
さらに、継続学習者は、
> 学習に対し、自分なりの意味づけができる自信を持つ



たとえつまらなかったとしても、
多様な評価軸を持つため「ムダにならない」と思える

> 学習者の周囲には、学習者が存在。
…ロールモデルへのアクセスが容易

【学習開始までの流れ】社会人大学院の場合



社会人大学院の場合、
キャリア課題の認識から
学習開始までの工程が
長くなることが多い

(例)

キャリア課題に直結するものを学習する過程で・・・

「学習者のコミュニティ」
に入り・・・

↓

コミュニティ内で
ロールモデルを発見

学び進めるうえで体系化・理論化への意欲が高まり、具体的な検討へ。

【学習開始までの流れ】社会人大学院の場合

この時点では
**書籍購入を含む
他の選択肢と
並行検討**

↓
現状、教員免許
など特定の資格
を除き、大学や
大学院は選択肢
にあがらない

キャリア課題の
認識

学びたい内容＝
資格名の発見・探索

解決イメージ＝
ロールモデルの発見

学習手段の
検索・検討・獲得

学習開始
(民間等)

学習者の
コミュニティ入り

肚落ち(体系・理論
への意欲昂進)

大学院利用の
ロールモデルの発見

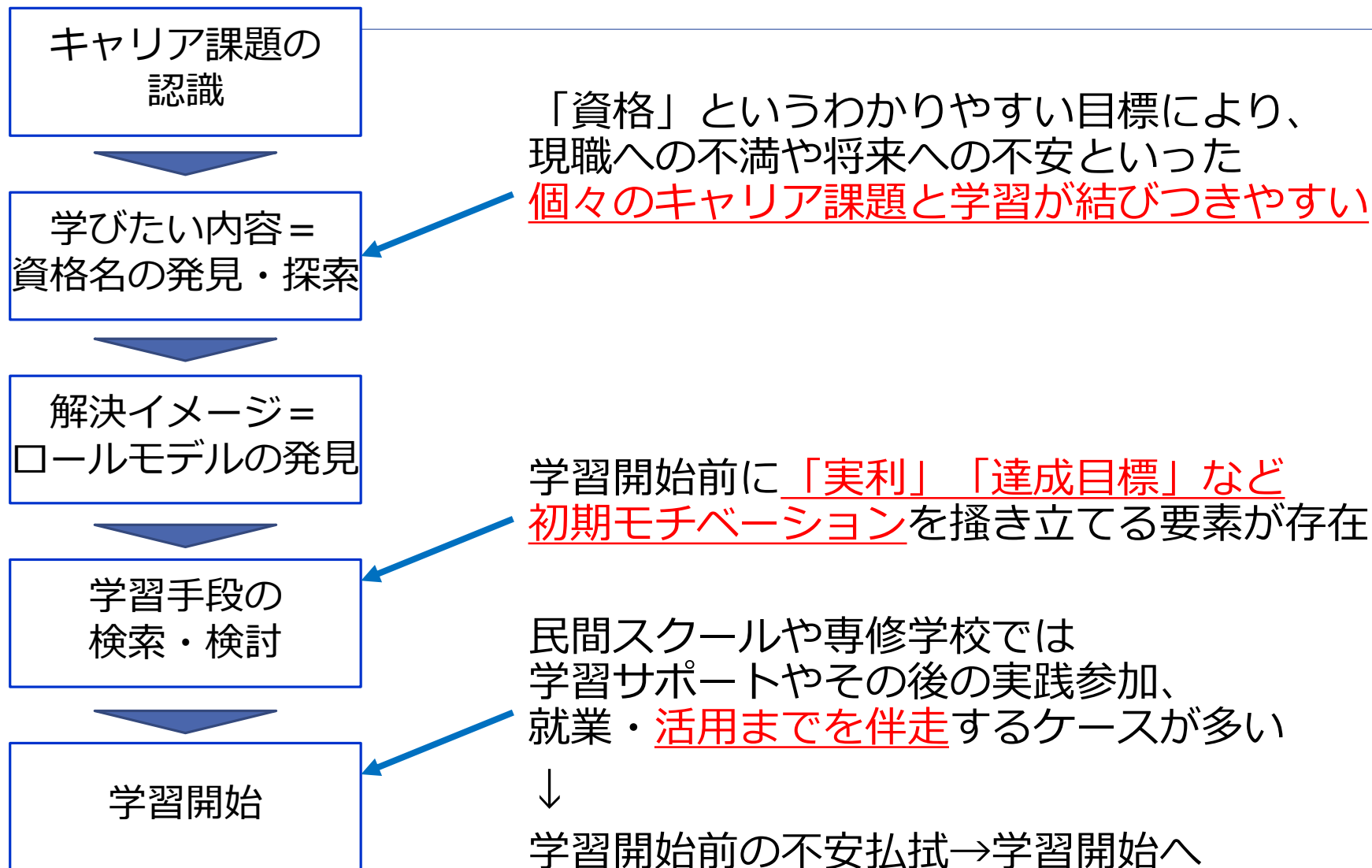
学校の
検索・検討

学習開始
(正規課程)

ロールモデルと
出会う機会は
希少

↓
検討に至るには、
セミナーや履修
証明など他のプ
ログラムからの
トスアップが有
効

【学習開始までの流れ】～資格対策の場合



【大学院での学習のメリット】

社会人大学院生が感じる大学院での学びのメリット

「スタディサプリ社会人大学院」「社会人＆学生のための大学・大学院選び」で取り上げた学習者のキャリアヒストリー事例から抽出。

- メリット① 普遍性・一般性を持つ専門知へのアクセス
 その中での**自らの過去の経験の位置づけ**
- メリット② **学習への複数のモチベーション**
- メリット③ **同じ問題意識を持つ仲間とのネットワーク形成**
- メリット④ 周囲を巻き込む**プロジェクトマネジメント能力**の獲得
- メリット⑤ 行動力・実現力・**やりきる力**
- メリット⑥ **視野の広がり**・フラットに議論できる力
- メリット⑦ 資格（臨床心理士など）、学位（特に海外勤務者）

挙げられるメリットは「コンピテンシー」中心

【学習者の教育機関に対する評価ポイント】

実施者が評価する「学び」のメリット＝

「知識・スキル」や「資格」の獲得

＋

「コミュニケーション能力」や「問題解決力」などの**コンピテンシー**、
「**人的ネットワーク**」（先生・協会、および学習仲間）

←演習・実習や実技、勉強会など**学びの過程から得たもの**が挙がる。

教育機関に対して評価することとしても、

- ・「**就職・転職・独立のためのバックアップ**」
- ・「**上達・資格合格・受講継続のための学習時のバックアップ**」

などのサポート態勢が挙がる。

→重要なのは「どれだけ身につけられるか」。「次回」の学びの際にも重視

学びを実施し、活用している人が評価するポイント＝

教育方法・環境・バックアップ態勢→

社会人学習者は「教えられるもの」よりも「学べるもの」を優先して評価

【学び続ける人の学びの姿】 越境と往還

「仕事をしながら学習する社会人」の場合、
「実践の場」との往還によって
学びを深める。

「経験」と「振り返り・棚卸し・言語化」
を繰り返していく。



仕事だけではなく、地域活動、
子育てや介護など私生活も
「実践の場」



【学び続ける人の学びの姿】

対面の場で、リフレクションと対話を楽しむ

学び続ける人は、
動画やネット、書籍などコンテンツへ気軽にアクセスすると同時に、
対面の場をリフレクションと対話の場として効果的に活用

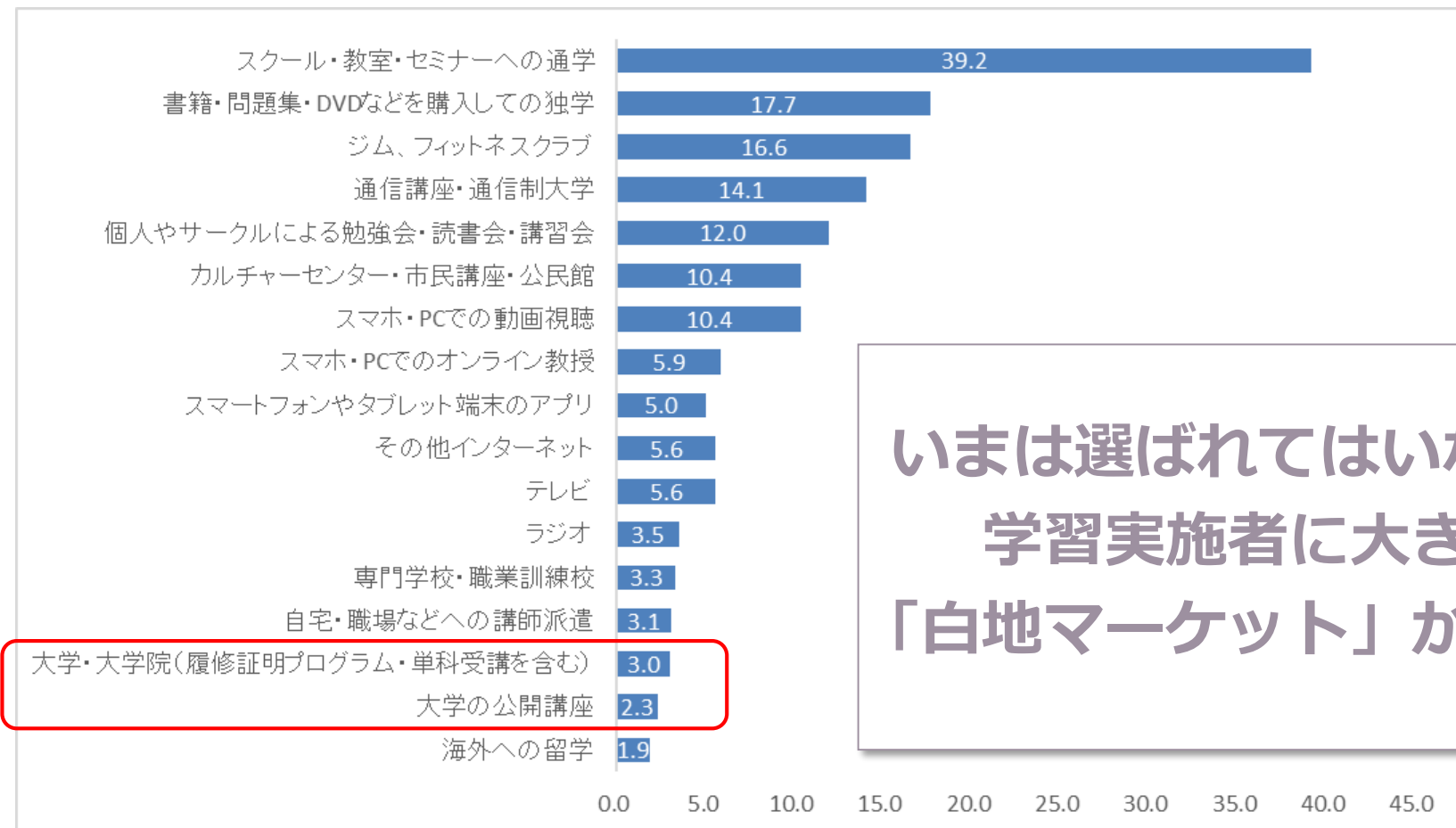


写真左上・左下／青山学院大学ワークショップデザイナープログラム、写真中上／金沢工業大学虎ノ門大学院、写真中下／キャリアカウンセリング協会
継続学習プログラム、写真右上／Peatixコミュコレ(コミュニティコレクション)、写真右下／KANDAI MeRiseオープンカレッジ「ビジネスデザインスクール」

【学ぶ手段としての「大学院」】

大学・大学院（履修証明・単科受講を含む） **3.0%**

この1年間で実施した（実施している）全ての習い事・学び事について伺います。
学んだ手段に該当するものを全て教えてください。



いまは選ばれてはいないが
学習実施者に大きな
「白地マーケット」が存在！

出典：2017年12月実施 学び実態調査

全国の20～69歳男女の「学び実施者」を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査 ※3月リリース予定

サンプル数N=3,107（男性1,555 女性1,554）

【大学院が「選ばれていない」理由】

①学習意欲を「喚起」する力の不足

●学習意欲を「喚起」する力の不足→大学院が学習の選択肢に入らない

＞提供価値のズレ

- ・日本では「学位」を目的とする学習者は少なく、現時点では多くの学習者にとり学位課程はオーバースペック
- ・学習者が**学びたい内容がちょうど学べる課程が少ない**
- ・リフレクションの機会など経験との統合ができる課程が少ない

＞喚起・発信の不足

- ・（特にコンピテンシー面で）各課程のメリットがわかりにくい
社会人にとっての各課程の提供価値が言語化されていない
→何ができるか、どう成長できるかイメージしにくい
- ・社会人大学院生の**ロールモデルとの接触機会が少ない**

＞他の教育機会とつながっていない

- ・学習者がいま学んでいることと大学院が接続されていない

【大学院が「選ばれていない」理由】

②学習者の条件との不適合

● 学習者の条件と合わない→進学したくてもできない

> 条件面でのバリエーションが少ない

- ・ 費用の高さ
- ・ 学習期間のバリエーションの少なさ
- ・ 開講曜日・開講時間が合わない
- ・ 立地の限定

【社会人を大学院へといざなうには】

① 提供価値の明確化／小規模学習機会の拡充

1 > 大学院による「社会人が学びたくなるプログラム」の提供拡大

→各大学院の対学習者／対社会提供価値の明確化・実体化

A「何ができるようになるのか」の明確化

提供価値の言語化と大学院内での共通認識化
(コンピテンシー面を含む)

検討の際の長期視点と短期視点の峻別

B **小規模で機動的な学習機会**の拡充

費用・期間・立地の面でのバリエーション拡大

小規模学位の増量

正規課程の一部として位置づけられる仕組みの構築

学びのコミュニティへと引き込む機会としての活用

【社会人を大学院へといざなうには】

②社会人に魅力的な教育方法／学習支援

C 教育方法の改変：**実務との往還が可能な越境的学習の場**に

双方向性が高く、リフレクションやアウトプットの機会があり豊富な授業の比率拡大

社会人が**継続して学びたくなるプログラム**を増やす

対面の必要のない授業のe-learning化

D **学習支援の拡充**

社会人版**アカデミックアドバイザー専門職**の創設
キャリアとの接続、リフレクションを支援。
カウンセリングスキルやキャリア理論、
社会人学習に関する理論・知識を持つ存在。

学習後の振り返り→次に学ぶプログラムへの接続

アウトプットの場・コミュニティづくりの支援

【社会人を大学院へといざなうには】

③教育機関側の態勢の整備

2 > 大学院が社会人学習を担う態勢の整備

A 社会人学習の**担い手の「手弁当状態」からの脱却**・
社会人学習担当部門への人的・資金的サポートの拡充

評価の改善

人的・金銭的資源の投入

プログラム開発への援助

B 継続的な社会的ニーズ情報の収集

産業界等のニーズについては、雇用側だけではなく
学習者のニーズの収集が必要

修了生との継続的な関係構築と修了生を通じたリサーチ

「**ロールモデル**」としての登用

C他の学習機関との連携

D学習者に対する金銭的支援の拡充